

令和6年（2024年）2月8日

## nano tech 2024展にて、山形大学有機エレクトロニクス イノベーションセンターが『米国化学会賞』を受賞

### 【本件のポイント】

- nano tech展は、出展者数：370団体（2023年）、来場者数：4万2千人（2024年）を誇る、ナノテクノロジー分野では世界最大級の展示会。
- nano tech 2024展では、nano tech大賞の部門賞として「米国化学会賞」を今回新設。その初の受賞者として、山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター（INOEL）を選んだ。nano tech大賞/部門賞 計9賞のうち、大学の受賞は山形大学が唯一。
- INOELのナノテク展出展は3回目です。受賞は今回初。産学連携や国際化に向けた活動が認められた形。今後オープンイノベーションの加速に結びつくことが期待される。



### 【概要】

2024年1月31日～2月2日に東京ビッグサイトにおいて開催された、nano tech 2024 国際ナノテクノロジー総合展・技術会議（通称：ナノテク展）において、同展に出展していた山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター（INOEL）が、『nano tech 大賞 2024 米国化学会賞』を受賞した。米国化学会賞は今年新設された賞。INOEL が展示した世界最先端の有機材料・ナノテクノロジー・印刷技術が、サステナブル（持続可能な）エレクトロニクス実現に向けた取り組みとして評価された。また、大学と企業の若手が生き生きと活動し、国際化にもオープンで、次代を担う場になっていることも評価された。今回の受賞は、山形大学が目指す持続可能な次世代技術の研究開発や、国内外の産業界へのアピール、さらなる海外連携の強化や、オープンイノベーションの加速などに結びつくものとして期待される。

### 【受賞理由】

山形大学 有機エレクトロニクスイノベーションセンターでは、世界最先端の有機材料・ナノテクノロジー・印刷技術を基盤に、サステナブルエレクトロニクスの実現に向けて取り組んでいる。山形大学が長年培ってきた体系化された学術と産業界の優れた開発力を融合させることで次世代の IoT 社会に貢献するイノベーションを創出している。大学と企業の若手が生き生きと活動し、次代を担う場になっている点も優れているため、本賞に相応しいと判断した。

nano tech 展ホームページ上 (<https://www.nanotechexpo.jp/main/>) における公開予定について：2024年2月末まで開催しているオンライン展示が終了次第、開催報告書等に掲載予定とのこと。

#### お問い合わせ

学術研究院教授 有機エレクトロニクスイノベーションセンター長  
佐野 健志（有機デバイス、次世代太陽電池）  
TEL 0238-29-0566 メール [takeshi.sano@yz.yamagata-u.ac.jp](mailto:takeshi.sano@yz.yamagata-u.ac.jp)  
INOEL 事務室 [yu-kouinoel@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:yu-kouinoel@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)

配布先：工学部長記者懇談会参加報道機関

(参考資料) 審査結果通知書、授賞式写真、INOEL 出展ブース外観など



## nano tech 大賞 2024 審査結果

### 山形大学 有機エレクトロニクスイノベーションセンター 様

この度は、nano tech 2024 国際ナノテクノロジー総合展・技術会議にご出展いただき、誠に有難うございます。nano tech 大賞審査会議の結果、貴社が受賞されましたのでご連絡申し上げます。

### 米国化学会賞

#### 受賞理由：

世界最先端の有機材料・ナノテクノロジー・印刷技術を基盤に、サステナブルエレクトロニクスの実現に向けて取り組んでいる。山形大学が長年培ってきた体系化された学術と産業界の優れた開発力を融合させることで次世代の IoT 社会に貢献するイノベーションを創出している。大学と企業の若手が生き生きと活動し、次代を担う場になっている点も優れているため、本賞に相応しいと判断した。

